

令和8年度 山形県「道の駅」検定 テキスト

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
山形-1	月山	月山あさひ 博物村	鶴岡市	国道 112号	<p>出羽三山信仰の山である月山のふもとに建つ「道の駅」。施設は国道112号をはさんで建てられていて、それぞれ個性ある内容となっている。メイン施設は「物産館」と「山ぶどう研究所」のある建物。</p> <p>鶴岡市朝日地区では昭和40年代からヤマブドウを原料にしたワインづくりをはじめ、その後、ヤマブドウを原種としたヤマ・ソービニオン、甲州、セイベル9110もつかうようになった。これらはすべて近隣や鶴岡市内の農家の手による栽培品種で、個性あるワインは人気を博している。なかなか手に入らない一升瓶詰にした「村民還元ワイン」赤・白もある。コンクールで金賞をはじめとする受賞ワインも増加、日本ワインコンクール2025甲州部門で、「ソレイユ・ルパン甲州シュール・リゼ2023」が金賞を受賞、その品質にも注目が集まっている。</p> <p>隣接する「梵字の蔵」では室内壁面に取り付けられたボルダリング設備でクライミングが楽しめる。2階ではトランポリン体験も。カフェ「梵字の茶屋」も併設していて、はるか下を流れる梵字川や川向かいに流れ落ちる亀の滝を眺めることができる。また、梵字川に架かる吊り橋のふれあい橋は数十メートルの高さがあり迫力満点。</p> <p>国道を挟んだ北側には、多彩なジャンルの芸術文化を一堂に集めた「文化創造館」があり、霊場出羽三山や雪国の知恵の遺産である多層民家など歴史ある朝日地区の豊かな文化を紹介している。2016年(平成28年)より出羽の古道「六十里越街道」コーナーが開設されたほか、観光案内所もあり、古道歩きの拠点となっている。</p> <p>出羽の古道「六十里越街道」とは、山形県の庄内地方と内陸を結ぶ街道で、1200年前から開かれたと伝えられている。山岳信仰の盛んだった室町・江戸時代には、湯殿山を目指して東北や関東各地から訪れる参拝者でにぎわい、物資の輸送や参勤交代にも使われた街道である。</p> <p>築150年以上という古民家を移転して手打ちそば屋を営む「そば処大梵字」では、朝日地区で栽培されたそば粉を100%使用し、冷たいそば、温かいそば、名物大ざるなどのそばメニューを提供している。さらに「月山ワイン」や甘味「大梵字おやき」、「行沢(なめざわ)とちもち」を楽しむことができる。</p>
山形-2	河北	ぶらっとぴあ	河北町	国道 287号	<p>国道287号の最上川にかかる青い橋梁・谷地橋のすぐ脇にある道の駅・河北は、「林家舞楽」を奉納する谷地八幡宮にある、木製の火の見櫓(やくら)をイメージした全国でも珍しい4階建ての「道の駅」だ。2023年(令和5年)2月1日にリニューアルオープンした。</p> <p>河北町はかつて、紅花の生産と集散地として栄えた町で、紅花は山形県内ばかりでなく、遠くは宮城県村田町周辺からも紅花が集まり、最上川舟運と北前船を使って京都まで運ばれた。なかでも近郷きっての豪農だった堀米家は、紅花商いで財を築き、その屋敷は紅花資料館として観光に一役買っている。</p> <p>「道の駅」のグルメでおすすめは「肉そば」と「谷地の肉もち」だ。「肉そば」は温冷選べるが、ほとんどが冷たい肉そばを選ぶ。そのルーツは所説あるが、戦前、そばが居酒屋を兼ねていた当時、つまみで残った馬肉の煮込みをそばにかけてみたところ、思いのほかおいしかったことがルーツになったという説がある。その後、戦争により馬が手に入りづらくなったことで、どこの家でも飼っていた鶏にとって代わり、また締めとして食べる時に、よりのびにくくコシを保てるように、ということまでスープを冷やして食べるスタイルが定着したそう。山形県の河北町発祥と言われるソウルフードで、B級ご当地グルメとしても注目を浴びた。具は歯応えのある鶏肉(親鳥を使用)とネギがメインで、つゆは鶏だしで、脂が固まらないまま、冷たく美味しく食べられるのが特徴である。温かい鶏だしつゆと親鳥で作ったチャーシューを、一口大の餅を入れた「谷地の肉もち」は、道の駅のオリジナルでおすすめだ。</p> <p>河北町はスリッパ生産の町。明治時代からぞうりの生産が盛んだったが、1965年(昭和40年)ころからスリッパ生産に移行して、長年日本一の生産量と品質を誇っている。「道の駅」ではそのスリッパ販売に力を入れていて、紅花、スリッパを中心とした河北町の名産品販売が期待されている。</p>
山形-3	寒河江	チェリーランド	寒河江市	国道 112号	<p>山形県のほぼ中央に位置し、東に蔵王、西には月山、葉山の山々を一望できる道の駅・寒河江は、東北最大級規模を誇るさくらんぼのテーマパークだ。2024年(令和6年)から2025年(令和7年)にかけてリニューアル、まず目につくのは大きなサクランボのモニュメントで、絶好の映えスポットだ。そして横に長い中心施設の「チェリーランドさがえ」には寒河江市だけでなく広く山形県内の特産品や工芸品が並べられ、ここだけで山形のお土産がそろうのではないかと想像させるほど。600品目を超えるサクランボ関連商品は圧巻。かもの玉子とコラボ「さくらんぼのたまご」をはじめ、山形産サクランボをまるごと一粒使用したゼリー「さくらんぼきらら」などのお菓子、サクランボを使用した調味料、麺類、お惣菜も豊富にラインナップ。また、ご当地ベアぬいぐるみ「さくらんぼベア」など多彩なオリジナル商品も人気だ。</p> <p>「さくらんぼ子どもキャンパス CLAAPIN SAGAE(クラッピンサガエ)」は、大型ネット遊具「せかいじゅ」が特徴的な屋内型児童遊戯エリア、月山や葉山を模した屋外遊戯エリア、気軽かつ手軽にアウトドアを楽しめるキャンプエリアの3つに分かれている。屋内遊戯エリアでは遊びを通した7つの「せかい」で創作・音楽・スポーツ・外国などを体験できる。キャンプエリアでは、日帰りしと宿泊のできるキャンプ場、道具がなくても楽しめるグランピング、電源を備えた車内泊が可能なRVパークがある。</p> <p>「さくらんぼ会館」のJAジェラートアイスコナーは、サクランボなどの地元産フルーツや特産品を使った、行列のできる人気店。産直施設「食と農kokocherry店」にも併設、旬の手づくりジェラートが味わえる。</p> <p>他にも、日本の伝統美を生かした木造建築の本格的な茶室「臨川亭」や、姉妹都市であるトルコ共和国ギレスン市にちなんで建設された「トルコ館」など、みどころがいっぱい。芋煮広場やテニスコート・グラウンドなど「河川敷公園」を使用することもできる。</p>

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
山形-4	あつみ	夕陽のまじやりん	鶴岡市	国道7号線	<p>日本海を背景に、絶景の夕陽が自慢の、1993年(平成5年)第1回登録の「道の駅」。季節や天候により夕陽の色や雲とのコントラストも変わり、感動のひと時を過ごすことができ、視界が良ければ新潟県村上市沖にある粟島を望むこともできる。「道の駅」の海側には遊歩道や磯に降りることができるコンクリート製の階段が設置されていて、散策や磯遊びを楽しめる。</p> <p>物産館には温海地域や庄内の特産品が並べられており、地域特産品の代表は焼き畑農法で作る「あつみかぶ」と「しな布」だ。「あつみかぶ」は山形の伝統野菜で、夏に山の斜面を焼き払って種を撒き、秋に収穫して甘酢に漬けたものが「あつみかぶ」だ。赤紫の色が独特で、これを目当てに訪れるファンも多い。「しな布」は、山に生えるシナノキの樹皮から繊維を取って織った布で、古代織りのひとつ。山形県鶴岡市関川地区と隣接する新潟県村上市山北町山熊田と雷地区に古くから伝わっている。2005年(平成17年)には「羽越しな布」として国の伝統工芸品に指定され、「道の駅」ではこの「羽越しな布」で作った財布や帽子、のれんなどの伝統工芸品を販売している。</p> <p>庄内の特産品に「しょうゆの実」がある。大豆と小麦、米に種麴を混ぜて作る発酵調味料。ご飯にのせて食べたり、酒のつまみにしたりするが、これもファンが多く人気の一品となっている。ほかにも、かやの実から作るかりんとう、近くの漁港に上がる鮮魚、干し魚、イカの一夜干しなども販売していて、山と海の恵を楽しむことができる。</p> <p>「道の駅」のある温海(あつみ)地域(旧温海町)は、鶴岡市の西南端新潟県境に接し、三方を摩耶山系の豊かな山々に囲まれ、西側には変化に富んだ海岸線が続く、自然の魅力が凝縮された地域である。「温海」の名称は、温泉から溢れ出た温かな湯が、川に流れ込み、日本海を温めたことに由来しており、「道の駅」から車で10分ほど行くと開湯一千年の歴史を誇る県内有数の観光地「あつみ温泉」がある。</p>
山形-5	にしかわ	月山銘水館	西川町	国道112号	<p>平成7年(1995年)4月第8回登録の「道の駅」。当初の立地は最上川支流である寒河江川上流部に建設された寒河江ダムサイトにあったが、冬季間の利便性を高めることと広い敷地を確保することを目的に、2004年(平成16年)に現在地に移転し規模拡大させた。移転先にはもともと、「月山自然水」と「月山ビール」の生産施設のほか、レストラン、温泉施設の水沢温泉などがあった。そこに「道の駅」を合わせることで、施設の規模と魅力をアップさせた。この移転により、駐車場は大型バスが入れるほどの広さへと大きく改善された。</p> <p>その後2016年(平成28年)には「道の駅」を、2023年(令和5年)には日帰り温泉水沢温泉をリニューアル、特に温泉はセルフウォウリュウができる本格サウナを導入、サウナランニングサイトでは山形県3位に選ばれるほどに。月山天然水の水風呂で、これまでにない整い体験ができると人気だ。温泉の泉質は、ナトリウム-塩化物泉。さっぱりとした湯あたりで、ゆっくり楽しめる。</p> <p>レストランと山形県唯一の地ビール醸造施設はおなじ建物にあり、食事しながら地ビール製造の様子を見学することができる。月山の湧水、麦芽とホップと水だけを使い、ドイツの醸造技術を正直に行って作られた地ビールは「月山ミュンヒナー」「月山ピルスナー」が定番。季節によっては別のビールを味わうことができ、瓶ビールも販売されている。</p> <p>「道の駅」のある西川町は、山形県のほぼ中央、山形市の西方32kmに位置し、東北の名峰月山の麓に広がる町だ。町の総面積のほとんどが森林で占められ、町内には清流日本一と名高い寒河江川が流れるなど、豊かな大自然に囲まれている。また県内でも有数の豪雪地帯のため、町の中心部でも積雪が1mを超える。「道の駅」から車で10分程のところに月山湖はダム湖であるが、4月下旬から11月まで高さ112mの高さの噴水が打ち上げられ日本一とも言われている。国道112号のすぐそばにあり、ダムのダムの堤高が112m、ダム建設のために移転された方々の戸数が112戸と「112」にこだわっているのも興味深い。</p>
山形-6	いいで	めざみの里観光物産館	飯豊町	国道113号	<p>福島県相馬地方と宮城県、新潟県を結ぶ国道113号のほぼ中間地点に位置する、1996年(平成8年)第10回登録の「道の駅」。県内外、観光からビジネスまで幅広い利用者が多い。</p> <p>「道の駅」の物産館には山形県置賜地方の商品が数多く、「おみやげ」「青果」「お酒」「民芸品」と4つのコーナーに分けられている。その中で人気ナンバーワンは「あけがらし」。隣町の長井市にある山一醤油が200年前から独自生産している調味料で、米麴にからし、麻の実、生絞り醤油、三温糖を練り合わせて発酵熟成させたもので、調味料としてだけでなく、熱いご飯にのせたり、お酒のつまみにも最適。人気ナンバーツーは山形名物「玉こんにゃく」、ナンバーワンの漬物の老舗三奥屋の、晩秋に咲くキクの花に、春から秋までの山形の山菜・野菜10種類を刻んで漬けた「晩菊」だ。</p> <p>「道の駅」のある飯豊町は、米沢牛の主産地として出荷量の40%を占めており、米沢牛と同じ肥育方法で育てた牛肉を飯豊牛として販売している。「道の駅」では、ステーキ用からしゃぶしゃぶ用、切り落としまで売られていて、イベント時にはその美味しい牛肉を買い求めようと、開店前から長蛇の列が出来るほどの人気がある。</p> <p>また、飯豊町は2004年(平成16年)からとどろく特区となっていて、「とどろく」のほか「とどろくまんじゅう」などの菓子類も人気だ。</p> <p>レストランでも飯豊牛のメニューが目玉。「上カルビ丼」や「米沢牛もり盛り丼」、「米沢ラーメン」や「そば」はいつも人が並んでいる。</p> <p>「道の駅」から車で20分ほどのところにあるダム湖白川湖は、水没林で人気だ。春の訪れとともに大量の雪解け水がダムに流れ込み、満水となった白川湖から柳の木々が生えているかのように見える。見頃は3月下旬から4月中旬の、残雪とともに白に包まれる「白の水没林」、4月中旬から5月中旬のシロヤナギが芽吹きはじめ、湖面の色もより一層濃い緑色に輝く「緑の水没林」だ。特に朝方がおすすめで、天気が良い日は霧に覆われることがあり、木々に朝霧がかかると、幻想的な風景を見ることができる。</p>

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
山形-7	むらやま	村山市 故郷交流施設	村山市	国道 13号	<p>村山市にある道の駅・むらやまは、1997年(平成9年)第12回登録で、国道13号をはさんで東西に施設がある珍しい「道の駅」だ。村山地域にはそば屋が多く、なかでも村山市内のそば名店を14軒(2025年現在)集めた「最上川三難所そば街道」がある。「最上川三難所」とは、江戸時代に栄えた最上川舟運で船頭たちが最も恐れていた3つの難所がすべて村山市にあることから来ている。碁石を並べたように岩が突起している「基点」、川底に細い岩礁が三層をなしている「三ヶ瀬」、岩礁が川底全体を覆い急流になっている「隼」を楽しむ舟下り観光も楽しめる。</p> <p>他にも市内の観光名所・東沢バラ公園では750品種2万株のバラが植えられていて、6月と9月中旬から9月下旬の年2回、バラまつりが開催される。全国のバラ園で唯一、環境省から「かおり風景100選」の認定を受け、「恋人の聖地」にも認定されている。</p> <p>「道の駅」では、市の名物となっているソバとバラにちなんだ商品「そばパフェ」や「バラジェラート」などにいろいろな角度から触れることができる。</p> <p>この「道の駅」でしか食べられない人気商品に「かいかもづ」がある。この地方ではそば粉をお湯で練った「そばがき」を「かいかもづ」と呼んでいるが、その「かいかもづ」をスティック状にして油で揚げ、塩を振ったもので、独特のもちもち感が人気の秘密となっている。</p> <p>「道の駅」と村山産業高校がコラボし完成したオリジナル商品「いも煮コロッケ」を使った、「いも煮コロッケパン」は、いも煮の具材が入り、ネバト口感がくせになるポリリウムたっぷりの和風ソースがアクセントで、ぜひ一度は食べてみたい惣菜パンだ。</p>
山形-8	とざわ	モモカミの里 「高麗館 (こうらいかん)」	戸沢村	国道 47号	<p>愛称にある「高麗」とは、朝鮮半島で10世紀から14世紀にあった国名だ。「道の駅」のある戸沢村は1985年(昭和60年)、国際交流の一環として始まった、韓国忠清北道堤川市松鶴面の人々との交流が始まりだ。農業技術交流・婦人交流・児童交流へと発展、互いに文化を学び、両国農村の共通する現状から相互理解を深めるうち、国際結婚で韓国の婦人達が暮らすようになり、「キムチ」を作るようになっていったことから、キムチは戸沢村の特産品になっている。</p> <p>「道の駅」の建物は高麗時代の建物をイメージしたデザインとなっている。中で販売しているお土産品からレストランのメニューまで韓国一色で、日本にいながら韓国気分を味わうことができる韓国好きに人気である。</p> <p>メイン施設の物産館では、販売しているお土産品やグッズはほとんどが韓国関連のもの。韓国からの輸入品ばかりでなく、村内で独自に製作した商品も目につく。おすすめは「戸沢流冷麺」だ。気軽に本格韓国料理が楽しめる高麗館の中にある韓国レストランColina(コリナ)では、広々とした店内は最上川が一望でき、麺に戸沢村産のそば粉が練りこまれたオリジナル冷麺を味わうことができる。お土産ナンバーワンは「岩のりパレ」だ。パレとは韓国語で青のりのことを指し、大きな岩のりはラーメンや、そば、味噌汁にちぎって入れるだけで海苔の風味が広がると好評だ。</p> <p>韓国の民族衣装「チマチョゴリ」試着体験や、アジアランタンが幻想的な「高麗館ランタンフェスティバル」、全国からコスプレイヤーが集まる「高麗館コス」、「K-POP DJライブ」など、イベントも大変盛り上がっている。</p>
山形-9	鳥海	(森のエリア) ふらっと (海のエリア) 遊楽里	遊佐町	国道 7号	<p>東北を代表する名峰・鳥海山の麓の遊佐町にあり、「道の駅」は国道7号をはさんで「森のエリア」と「海のエリア」2か所に分かれ、遊佐町の味覚を堪能できる。メイン施設は「森のエリア」で、物販、食事処、ファストフード、パン屋などがある。特に人気なのが魚漁協婦人部が運営している鮮魚直売所「元気な浜店」で、店名通り元気なお母さんたちが、春のサクラマスから始まり、夏の「天然岩ガキ」、秋には遡ってきた「鮭」が並び、寒さが厳しい冬には脂がのった「寒鱈」を寒鱈汁にして販売するなど、季節ごとに庄内浜の旬を感じる海産物が揃っている。焼き魚・刺身・天ぷら・フライなどのお総菜のほか、加工品も充実している。海底に湧く鳥海山の伏流水に含まれるミネラル豊富な水で育った岩ガキのおいしさは格別で、夏一番の人気商品だ。</p> <p>魚以外にも、ひまわりの会が運営する農産物直売所では、山・里・砂丘など遊佐町の恵まれた土地柄を活かして作付けされた農作物は、ホームページに掲載されているだけでも年間70種類ほど。ファストフードコーナーでは、庄内名物だだちゃ豆を使用しただだちゃ豆ソフトクリームや山形名物ラ・フランスを使用したソフトクリームが人気だ。</p> <p>「道の駅」のある遊佐町は、山形県庄内地方の最北端にある人口約12,000人の町で、西は庄内砂丘をへだてて「日本海」に臨み、北は秋田県との県境に秀峰「鳥海山」を有しており、海と山両方の恩恵を受けて育まれた自然環境が四季折々の見事な景観を作りあげている。基幹産業である農業では、鳥海山の麓に広がる庄内平野の肥沃な大地と美しい湧水を利用して栽培された庄内米をはじめ、様々な農産物が生産されている。姉妹都市であるハンガリーとの交流から広まったパプリカの生産は、今では生産者数日本一として知られるまでに成長した。海の幸・山の幸を活かした豊かな食文化も魅力の一つだ。</p> <p>国の重要無形民族文化財に指定されている、杉沢比山、蔵岡延年、吹浦田楽、花笠舞など、長い歴史を経て、遊佐町が守り続けてきた「鳥海山の恵みと修験の文化」を伝える貴重な宝だ。</p>

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
山形-10	田沢	なごみの郷	米沢市	国道121号線	<p>福島県会津地方と山形県置賜地方を結ぶ国道121号・大峠レインボーライン沿いにある、1997年(平成9年)4月第12回登録の「道の駅」。「道の駅」の建物は、米沢市小野川地区に建っていた築200年余りの古民家の資材を使用して建設されたもので、兜造り風の古民家からは、どこか懐かしいような風情が漂ってくる。</p> <p>敷地の一角には「草木塔」が立てられている。「草木塔」とは、田沢地区が発祥の地と考えられている珍しい石塔で、その総数は全国で約170基、関連の類似塔を含めると190基以上ともいわれているが、江戸期の草木塔は34基で、そのうち32基が置賜地方にあり、米沢市域には17基ある。最も古いのが田沢地区入田沢塩地平に建てられており、1780年(安永9年)、上杉鷹山公の時代に建てられたものと言われている。草木塔が建立された理由は諸説あるが、草や木などの自然の恵みへの感謝の気持ちを供養する心、災害や危険な山仕事から命を守るようにという自然に対する畏敬の念、山野の森林資源の恒久的な豊かさを願ってなど、広い意味で『自然に感謝する心を表す』意味があると思われる。</p> <p>「道の駅」一番のおすめは、挽きたて、打ちたて、茹でたての手打ちそばだ。大荒沢の澄んだ水と自家製製粉したそば粉を使って手打ちした香り高い、滑らかな食感のそばを、濃厚なてつくりつゆでいただくのは格別だ。</p> <p>お土産には、特産の米沢牛をつかったサラミなどの加工品や山形自慢の郷土料理も煮にスパイスで辛みの効いたルーで仕込んだ、和風仕立ての「いも煮カレー」はご当地カレーで人気の一品だ。地域の工芸品には「笹野一刀彫」がある。コシアブラの丸木を、サルキリと呼ばれる刃物で削って簡単な彩色を施したもので、米沢市笹野地区の農民によって伝統的に製作されてきた。代表的な題材は「お鷹ポツポ」と呼ばれる鷹の彫物で、上杉藩主・上杉鷹山が農民の冬の副業として奨励したと伝えられている。</p>
山形-11	白い森おぐに	ぶな茶屋	小国町	国道113号線	<p>山形県から新潟県に向かって国道113号を走ると、県境の5kmほど手前にある、1998年(平成10年)4月第14回登録の「道の駅」。国道に沿って車窓から見える荒川の赤芝峡の渓谷美が素晴らしく、その景観を楽しみながら走るドライブもまた格別。渓谷は飯豊山地と朝日連邦にはさまれた山峡部で、秋になると名物の紅葉が圧巻だ。</p> <p>「道の駅」の愛称となっている「白い森」は、町域の95%を占める森林の代表がブナの木だが、ブナの樹肌は白っぽいまだら模様になっていることと、豪雪地帯である雪の白さから名付けたものだ。</p> <p>「道の駅」の施設は軽食・休憩コーナーのある「ぶな茶屋」、「レストランあいあい」、「物産直売所」からなっている。「ぶな茶屋」の売りは地元色(食)満載のファストフード。自家製大きな天ぷらがトレードマークの「天ぷらそば」や「山菜そば」、山形名物の「玉こんにゃく」、「おにぎり」など、すべて地元のお母さんたちによる手作りだ。「レストランあいあい」では小国町産の高さびを使った「高さびたざるうどん」が人気だ。小国町は岩手県の南部地域と肩を並べる雑穀エリアで、タカキビはクセが少なく、もちもちとした弾力がある赤い小粒の雑穀だ。食物繊維やマグネシウム、鉄分などが豊富で栄養価も高く、加工すると淡いピンク色になるのが特徴だ。</p> <p>「物産直売所」は地元の自慢商品がそろっており、飯豊山地で採れる山菜、キノコ、アユをはじめ、山の幸、畑の幸、果樹園の幸が満載だ。「道の駅」おすめの地酒「小国桜川」は、地元小国町で江戸時代中期1706年創業の桜川酒造で作られている。飯豊山麓の水、地元で育った酒米を使い、昔ながらの手法で作られた日本酒は、すっきりとした味わいだ。週末にはテント販売も行われており、県境をまたぐドライバーの休憩スポットになっている。</p>
山形-12	おおえ	コラマガセ	大江町	国道287号	<p>道の駅・おおえは、2024年(令和6年)10月にリニューアルした「道の駅」だ。愛称は「コラマガセ」で、地域住民が舟に集う様子「コラマ=来ないか・おいで」と「マセ=待ってる・集まれ」を込めている。</p> <p>「道の駅」のある大江町は、民謡「最上川舟唄」発祥の町として知られている。鎌倉時代から戦国時代に、このあたり一帯を納めていた大江公の左沢楯山城(あてらざわ たてやまじょう)があった城跡地の日本一公園からは、大きくカーブを描く最上川の絶景を見渡すことができる。町の中心部を流れる最上川では、江戸時代から明治時代にかけて最上川舟運(しゅううん)が行われ、左沢はその川港として大いに栄えた。</p> <p>「道の駅」は背後を流れる最上川沿いにあり、隣にはテルメ柏陵健康温泉館があることで、国道287号沿い大江町の観光と物販の中心となっている。「道の駅」の道路沿いに建つ大きな看板は、最上川舟運の「小鞆飼舟(こうかいぶね)」をイメージしたものだ。</p> <p>大江町の特産品はフルーツ。リンゴを筆頭に、ラ・フランス、スモモ、モモ、サクランボなどが続く。また新鮮な野菜から春の山菜、秋のキノコなどが豊富で、「道の駅」の産直コーナーで購入できる。特に7月から11月のスモモは、新たな品種サンルージュを生産しており、大玉で糖度が15度超と高く、紅色の果肉が鮮やか、日持ちも良いのが特徴だ。</p> <p>「道の駅」のおすめの1つに、大江町の地酒「大江錦」を使った酒ようかんがある。ほんのり酒感がありつつ、白餡のやさしい甘さでパクッと食べやすいのがポイントだ。もう1つは「真麻(まお)あんパン」である。真麻とは青芋(あおそ)の別の呼び名で、イラクサ科の多年草カラムシ(苧麻)のことで、この皮から採れる強靱で光沢のある繊維、およびその繊維の束は、古くから上質な夏衣の原料(奈良晒や越後縮など)として使われ、中世から江戸時代にかけては非常に高値で取引されていた。真麻を粉末状にし、あんパンにふりかけ焼き上げたあんパンは、抹茶のような味と香ばしさで人気だ。このほかにも、真麻うどんや真麻ひやむぎは歯ざわりやのど越しがよく、お土産にもピッタリだ。</p>

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
山形-13	庄内みかわ	いろり火の里	三川町	県道 333号	<p>広大な田んぼが広がる庄内地方の中心的な場所に位置する三川町。1999年(平成11年)8月第15回登録の道の駅・庄内みかわは、町の総合施設「いろり火の里」内にある。いろり火の里には「道の駅」のほかにも、庄屋風の建物が昔懐かしい温泉入浴施設「なの花温泉田田」や、併設する宿泊施設「田田の宿」、研修、会議など各種催し物に幅広く利用できる文化館「なの花ホール」などが広大な敷地に点在している。さらに屋外にはイベント広場や公園もあり、三川町、鶴岡市、酒田市など広い範囲から人々が訪れる。</p> <p>三川町は、庄内地方のほぼ中央に位置する人口約7,000人の自然豊かな田園都市だ。周辺には出羽三山や湯野浜温泉などの観光地があることから交通量が多く、「道の駅」の機能を果たすには十分な立地条件といえる。</p> <p>「道の駅」の物産館マイデルの「マイデル」とは庄内弁で「待っているよ」という意味。そこで待っているのは農業地帯である三川の米、野菜、食事、軽食、お土産品など。季節によって収穫される農産物が変わるので、行くたびに違う商品が並べられている。</p> <p>「道の駅」のおすすめは、さまざまな農産品はもちろんのこと、無農薬の庄内米を原料に、玄米・白米・モロヘイヤ・ピーナッツ味などがある「米おこし」もお土産に人気だ。</p> <p>食堂のおすすめは「鴨でんでん」。鴨肉とゴボウとキノコなどが入った醤油味のそばやうどんに、サトイモともち米を蒸かして丸めた「でんでん」(お団子)が入ったもの。鴨のうま味が溶け出した美味しいスープでいただく「でんでん」は格別だ。</p>
山形-14	たかはた	まほろば ステーション	高島町	国道 113号	<p>高島町では「まほろばの里」という言葉をイメージに使っている。「まほろば」とは、「まほら」という古語に由来する言葉で、「丘や山に囲まれた稔り豊かな住みよいところ」(高島町観光協会HPより)を表している。実際に高島町を訪れると、町は周囲の小高い丘や山に囲まれていて、水田、果樹園などが多く目につく。古代から縄文の史跡も多く、ほかの町ではあまり感じることがない、独特の雰囲気が魅力となっている。</p> <p>2000年(平成12年)8月第16回登録の道の駅・たかはたの向かいには、安久津八幡神社が建っていて、境内には山形県の指定文化財となっている三重塔がある。安久津八幡神社は、860年(貞観2年)に慈覚大師の発願により阿弥陀堂が建立され、その後、前九年の役の際、源義家が安部一族を平らげ、鎌倉の鶴岡八幡をこの地に勧請したとされている。神社に隣接しているのが「まほろばの里歴史公園」で、縄文時代の住居を再現しており、公園内には、芋煮会やバーベキューに利用できるあずま屋もある。駅内にある観光案内所に行くと、各種観光パンフレット、歴史パンフレットがあり、観光案内のほか、ルート案内やウォーキングコースの案内などを行っている。</p> <p>売店には高島町特産品がずらりと並び、高島町はフルーツ王国でもあり、高島町特産のラ・フランスやリンゴなどを使ったバターやジャム、焼肉のタレ、ドレッシングやヨーグルトソースなど多岐にわたっている。</p> <p>2025年(令和7年)4月にはレストランがリニューアルし、「食事処・フードコートくっちな」となった。「くっちな」とは、イタリア語で台所を表すクッチーナ(cucina)と置賜地方の方言で満腹の意味の“腹くっちな”をかけた高島らしい名称となった。</p> <p>キャンピングカーなどで旅行を楽しむ人には、RV専用駐車場があり(4月から11月)、シャワー設備が備わっていて、利用者に喜ばれている。</p>
山形-15	天童温泉	わくわくランド	天童市	国道13号	<p>2004年(平成16年)8月第20回登録の道の駅・天童温泉は天童市の中心部に近く、天童温泉を構成する11軒の温泉ホテルに囲まれている。天童温泉の歴史はそれほど古くなく、1911年(明治44年)に田んぼで井戸を掘っていて発見された。泉質はナトリウム-カルシウム硫酸塩の弱アルカリ性温泉で、温度は61.5℃、硫酸塩温泉特有のきりきずや末梢循環障害、冷え性、うつ状態、皮膚乾燥症などに加え、メタケイ酸を多く含んでおり美肌効果がある温泉だ。「道の駅」には入浴施設はないが、朝6時から夜9時まで無料で楽しむことができる源泉かけ流しの足湯・駒の湯がある。足湯の建物は将棋の駒をかたどっているのが特徴で、いつ行っても利用者の姿を見ないときはないほど人気。</p> <p>メイン施設は天童市森林情報館「もり～な天童」。以前は、観光案内と森林に関する常設パネル等の展示、トイレ、休憩が中心の「道の駅」だったが、2020年(令和2年)6月にリニューアルし、森林の情報発信に加え、同館を市の観光振興の拠点および生産量日本一を誇る将棋駒とラ・フランスのPRをさらに行うようになった。JNTO(日本政府観光案内局)による外国人観光案内所の認定を取得している観光案内所、生産量日本一の将棋駒の製作実演&市内の工人などが作った将棋駒の展示、同じく生産量日本一のラ・フランスをはじめとする天童のフルーツの魅力を発信する「テント ラ・フランスファクトリー」では、「ラ・フランスパイ」や道の駅もおすすめの旬の果物を使用したジェラート、オリジナルカーバンが人気だ。</p> <p>また、屋外には大型遊具で遊べる多目的広場があり、夏は噴水が上がり、子どもたちの歓声が聞こえてくる。観光客にとっても、市民にとっても、楽しく遊べる施設だ。</p>

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
山形-16	尾花沢	花笠の里「ねまる」	尾花沢市	国道13号	<p>道の駅・尾花沢は、2007年(平成19)年3月登録同年8月オープン「道の駅」だ。愛称「ねまる」は、尾花沢で使う「くつろぐ」という意味の方言。「道の駅」の施設でゆっくりくつろいでください」という思いから名づけたという。尾花沢は「花笠おどり」発祥の地であり、夏スイカの生産量日本一である。「道の駅」では花笠を手にしたスイカのゆるキャラが出迎えてくれる。</p> <p>夏に「道の駅」へ行くと、建物前にスイカ販売の大型テントが張られる。テントのデザインはスイカの模様になっていて、そこではスイカサイダーやジュース、スイカソフトが提供されている。駅舎内に入るとスイカのカレー、ドレッシング、ジャム、まんじゅう、漬物などの加工品が豊富だ。尾花沢のスイカは、盆地で昼夜の寒暖の差が大きいことから糖度12度+で、スイカの選果場・農家の皆さんの品質管理が徹底していることも美味しさの秘密だ。他にも季節の野菜が豊富に並んでおりいつも賑わっている。</p> <p>尾花沢は山形県内でも有数の牛肉産地となっていて、現在は尾花沢牛の育成に20軒以上の酪農家取り組み、8,000頭以上の黒毛和牛を生産している。その和牛を「道の駅」では「牛もつ煮込み定食」や「串焼き」として提供している。</p> <p>「道の駅」のおすすめの一つに「べそら漬」がある。朝どりの新鮮ななすを塩水で色を抜きピリ辛に漬けた茄子漬だ。もともと最上川、日本海を經由して関東・関西に野菜を持っていく際、荷崩れしたのを知らず、川水や海水に浸かっただけのまま献上してしまったのがはじまりと言われている。先に色抜きをし、水と一緒に漬けるべそら漬は、普通の塩漬の漬物とは違い、乳酸菌がたっぷり入った、酸っぱく辛くてしょっぱい爽やかな漬物で、ナスやスイカが使われている。</p> <p>「道の駅」から車で30分ほどのところには銀山温泉がある。江戸時代初期に開山した「延沢(のべさわ)銀山」の鉱夫が発見した湯治場が起源で、1689年(元禄2年)の開山後、温泉地として発展した。1913年(大正2年)の大洪水からの復興を経て、大正末期から昭和初期に現在のレトロな木造の洋風旅館街が形成され、ガス灯が灯るノスタルジックな風景が四季を通じて人気の温泉だ。</p>
山形-17	白鷹ヤナ公園	最上川あゆとぴあ	白鷹町	国道287号	<p>「山形の母なる川 最上川」といわれる最上川には、数か所の鮎のヤナ場がある。そのなかで最大といわれるのが、道の駅・白鷹ヤナ公園にあるヤナ場で、日本一大きいともいわれている。もっと白鷹の鮎をみんなで楽しみたいという想いから「白鷹町にヤナ場を復活させたい」と有志があつまり、ヤナ場の復元をはじめた。その活動に共感した約200名の人たちが株主となり会社を設立、法人設立から約25年経った後に「道の駅」となり、県内外の観光客が訪れるスポットとなっている。</p> <p>ヤナ場の解禁は8月1日だが、鮎料理は一年中楽しむことができる。「道の駅」のメイン施設は「あゆ茶屋」で、料理の提供が多く、地域の特産品を販売する売店と一体になっていて、買い物、食事、休憩をすることができる。「あゆ茶屋」で提供する料理はもちろん鮎料理が中心だ。ヤナ売店で炭火で焼いた絶品の鮎を使い、塩焼きと田楽の2匹の鮎に数点の小鉢料理がつく「あゆ定食」が一番人気だ。</p> <p>「道の駅」のおすすめは鮎の甘露煮。「道の駅」で調理・加工・パックとすべて行っているオリジナル商品だ。時間をかけてじっくり味付けされた上品な味は、ご飯やお酒のおともにはもちろん、温かいそばに載せて食べるのも格別だ。もう一つのおすすめは「やたら漬」。山形の郷土の漬物で越冬の保存食として長く愛されてきた。多種多様な夏野菜を「やたら細かく切る」「やたらと野菜を入れる」ところからその名が受け継がれたという。「道の駅」では、自前の農園で収穫されたキュウリ、ナス、ダイコン、ワラビをはじめとした野菜を漬けて提供している。</p> <p>最上川の川幅いっぱいには設置されたヤナ場は、見る人を圧倒する規模。4月下旬から10月末ころまで、ヤナ場を使ったさまざまなイベントが開催され、多くの人でにぎわっており、運が良ければ、数千匹の鮎がかかる場所が見学できる。中でも毎年4月には、ヤナ開き祭りが行われ、「道の駅」近くの最上川(川幅約180m)にワイヤーをかけ、こいのぼり約150匹が揚げられる。子どもの成長で自宅で揚げなくなったものなど、町内外から寄付を受けたこいのぼりを用い、約40年間続くこの行事は、春の風物詩となっている。</p>
山形-18	あさひまち	りんごの森	朝日町	国道287号	<p>「道の駅」のある山形県朝日町は、山形県の中央部を南北に貫く朝日連峰の中心部分の山麓にある。日本百名山の一つに選定されている朝日連峰の主峰・大朝日岳(1870m)への登山口は朝日町に3コースあり、登山好きには知られている。</p> <p>朝日町の山中には、空気をご神体とする「空気神社」がある。1973年(昭和48年)に町民の一人が「山の中のきれいな空気の中で仕事をしていると、平地で仕事をしている時よりも疲れにくい。これは、豊かな自然が作り出す澄んだ空気の恩恵である。町に空気神社を建立し空気とそれを生み出す自然に感謝しようと提案したのがきっかけで空気神社は誕生、1987年(昭和62年)には本格的に建立準備が始まり、1990年(平成2年)、世界に類例のない、新しい理念による環境モニュメントブナ林の中に5m四方のステンレス板を空に向けておいた「空気神社」が完成した。自然とブナ林を愛する朝日町らしさがある。</p> <p>朝日町の特産品の代表格はリンゴだ。2015年(平成27年)第43回登録の道の駅・あさひまちの建物は空から見るとリンゴの形をしていて、トイレの屋根はリンゴの葉っぱの形にするほど、リンゴにこだわっている。</p> <p>また朝日町で生産されるリンゴの「サンふじ」が有名で、「無袋ふじ」発祥の地としても知られている。「無袋ふじ」とは、実に袋をかけずに育てる栽培のことで、日光があたり甘みが増すのが特徴である。この無袋リンゴ以外に9月から11月にかけて数十種類のリンゴを仮設テントと店内で販売している。またリンゴを使った加工品も多い。「道の駅」のおすすめは「完熟リンゴソフト」と「アップルパイ」だ。どちらも朝日町産のリンゴがたっぷり使用されており、味わうことができる。</p> <p>朝日町にはPRキャラクター「桃色ウサヒ」がいる。公式ページによると、無個性・無軌道・無表情の3拍子が揃った特徴がないピンク色のウサギの着ぐるみで、スノーボードから田植えまでアクティブにこなす、体長は耳まで入れると約2m30cmくらいの性別は不詳だ。ハンカチやトートバッグ、文具など様々なグッズも人気だ。</p>

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
山形-19	しょうない	風車市場	庄内町	国道47号	<p>庄内町は「風の町」。最上川沿いに吹いてくる風はとても強い。地形の影響で特定の地域に吹く猛烈な強風「日本三大悪風」のひとつ、「清川だし」とも呼ばれるその強風を逆手にとって、市町村合併前の立川町が1993年(平成5年)から、全国初の行政による風力発電を開始した。2016年(平成28年)4月第45回登録、同年10月オープン。道の駅・しょうないの近くにも大型風車があり、そのことから「道の駅」の愛称が風車市場となった。</p> <p>庄内町は農業の町でもあり、「コシヒカリ」や「つや姫」のルーツとなり、また酒米としても優秀だった「亀ノ尾」発祥の地である。「道の駅」でも米の販売に力を入れており、「吉祥ファーム」で生産される「ゆうだい21」という米のほか、「ひとめぼれ」「つや姫」「はえぬき」「雪若丸」などが並んでいる。また、最上川の水が豊富な栄養分を運んで豊かになった畑では多種多様な葉物類や根菜類などの野菜が収穫され、「道の駅」の店頭をにぎわしている。春の山菜も「月山筍」はじめ多くの山の幸が並ぶ。地元産の食材をふんだんに使った総菜や弁当も人気だ。</p> <p>「風車の見える主婦レストラン いろいろ」では地元のお母さんたちが腕を振るっている。「道の駅」のおすすめはつきたての餅料理だ。あんこ餅、きな粉餅、雑煮のような汁餅の3種をセットにした「もちもち三種盛り」は人気の商品だ。</p> <p>2月上旬に開催される「寒鱈まつり」は、庄内浜文化伝道師特製の岩海苔をちらした「寒鱈汁」が食べられる、前売り券も売れる人気イベントだ。庄内浜文化伝道師とは、山形県庄内浜には約130種類の魚介類が水揚げされ、季節毎に旬の魚を楽しめる魅力があるが、食生活等の変化により魚離れが進んでいるため、庄内浜産水産物の美味しさや地域の食文化を伝えられる人材として山形県が認定した。2007年(平成19年)に活動が始まってからこれまで281人の伝道師が生まれている。</p>
山形-20	川のみなと長井		長井市	国道287号	<p>長井市は最上川舟運(しゅううん)で栄えた商人の町。長井より上流は最上川が浅くなるため、本格的な舟運はこの川港がスタート地点だった。荷物は米沢藩領の物資が中心で、川舟には米、麻に似た繊維を取る青麻(あおそ)や米沢織、穀類などを荷積みした。また河口である酒田からは海産物、塩、砂糖、京都の古着などが運ばれてきた。長井の商人はそれらの物資を売り買いして財を築いて行った。その川港があった場所に「道の駅」がつくられたことから、川のみなと長井という名称がつけられた。また、長井の玄関口として観光情報の発信、特産物の紹介などを行い、また、川とまちをつなぐ施設として「まちへ人を」「まちから人を」誘導するための拠点として活用されている。ここ長井でしか手に入らないもの、味わえないもの、体験できないものを提供し、たくさんの方が交流を行い、まちに活力を生む賑わいの交流拠点となっている。</p> <p>長井市では朝日連峰からの伏流水が豊かに湧き出す。その湧水は飲料としておいしいほか、野菜や果樹の生育、食品加工などに向いている。また、長井市では一般家庭から出る生ごみを堆肥にして農業の土づくりに活用する「レインボープラン」に早くから取り組み、安全安心な野菜作りをすすめてきた。サトイモ、ジャガイモ、ダイコンなどの根菜類、行者菜、ハクサイ、キャベツなどの葉物からトマト、ブロッコリー、ナス、さらに果樹としてイチゴ、メロン、サクランボ、リンゴ、ブドウなどが作られ、それらは「道の駅」の店頭にも並ぶ。そのほか、漬物や果樹、馬肉、ハムなどの加工食品から、みそ餅、日本酒、菓子類など長井の多彩なおいしいものが所狭しと並んでいて、目移りするほどだ。</p> <p>また、長井市は競技用けん玉生産日本一で、「道の駅」では市内で製造されたけん玉が販売されている。このけん玉にちなんで「日本一のけん玉カレー」は、赤い「米沢牛筋カレー」と黒い「長井ベジタブル(菊芋入り)カレー」の2種類が盛り付けられており、けん玉の玉に見立てた馬肉のメンチボールもついて大満足の一品。</p> <p>「道の駅」では、長井市観光案内所もあり、観光地や旅行商品の紹介も行われ、最上川フットパスの拠点にもなっている。</p>
山形-21	米沢		米沢市	県道1号	<p>米沢市ばかりでなく、山形県内陸南部置賜地方の食・特産品・工芸品・観光の発信拠点となるよう建設された。2017年(平成29年)9月第48回登録、2018年(平成30年)4月オープンの道の駅・米沢。山形県全体の周遊観光のゲートウェイとして、「重点道の駅」に認定されている。「道の駅」駅舎内には観光案内カウンターを設け観光案内を行っていて、インバウンド対応の専門職員がいる「道の駅」だ。</p> <p>お土産コーナーは農産物直売所と特産品販売所の2つのコーナーがある。農産物直売所では、置賜一帯から安全で新鮮とれたての野菜、果物を集めている。山形県置賜が発祥とされている「おかひじき」は、ミネラル豊富でヒジキと同じくらい栄養満点な春の注目食材だ。目を引くのはお弁当と総菜、漬物の種類が多いこと。地元の女性たちが中心になって作っている「かあちゃんの台所」の総菜と弁当は朝オープン時から大人気だ。</p> <p>「道の駅」のおすすめは、ファストフードコーナーで手軽に食べられる米沢牛の中でも、特に旨みが強い部位を厳選した「米沢牛の串焼き」、日本三大和牛の一つ、米沢牛のコクのある旨味を、サクサクの衣で包み込んだ贅沢なコロッケ「米沢牛いりコロッケ」だ。どちらも肉のうま味がたっぷりて人気の商品だ。</p> <p>特産品売り場には置賜こだわりの特産品が置かれている。笹野一刀彫(お鷹ぼっぼ)、米沢の織物「米織小紋」のハンカチ、マスク、ネクタイ、吾妻袋などが魅力的。</p> <p>特産品販売所と通路を挟み、山形県全体の日本酒、ワイン、クラフトビールが並ぶコーナーもあり、お酒の品揃えが豊富である。</p> <p>食事は米沢牛がたっぷり楽しめるレストラン「牛毘亭(ぎゅうびてい)」、フードコートには「牛どんぶり」の謙信亭、「米沢ラーメン」の毘沙門、「蕎麦処」の割割庵からなっており、こちらも置賜・米沢の味を堪能できる。</p> <p>道の駅・米沢の記念スタンプは、江戸時代後期の米沢藩主である上杉鷹山をモチーフにした似顔絵と「なせばなる」の名言が描かれている。</p>

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
山形-22	もがみ	あつつえ	最上町	国道47号	<p>全国的に有名な鮎釣リスポットの最上小国川に面し、瀬見渓谷の自然豊かな四季折々の風景が楽しみ、瀬見温泉まで車ですぐの、道の駅・もがみ。愛称の「あつつえ」は最上の方言で「ありますよ」の意味で、最上町に“ある”たくさんなのよし・やさしさ・おいしさで国道を利用する皆さんと地域をつなぐ場所を目指す「道の駅」だ。</p> <p>東北自動車道古川ICと東北中央道の新庄ICを結ぶ国道47号沿い、山形県の東の玄関口となっており、「道の駅」には町の玄関口として町内外の魅力を発信・案内できるよう、コンシェルジュ機能を持った案内窓口も開設している。対面による観光案内のほか、デジタルサイネージによる情報掲示、タブレットによる情報検索サービス、町民がオススメするスポットをまとめた観光カードを提供、最上地域8市町村や尾花沢市、宮城県大崎市、秋田県湯沢市など、近隣市町村の観光パンフレットも揃っている。</p> <p>「道の駅」のおすすめは、軽食コーナーで提供している季節限定の「アスパラコロッケ」と「いも煮コロッケ」だ。アスパラガスが一般の食卓に上ようになったのは昭和40年代以降。冷涼な気候、肥沃な土壌が栽培の適地とされることから、「道の駅」のある最上町では、コメに代わる作物として、2004年(平成16年)から町をあげて栽培に取り組み、急速に産地形成を遂げている。徹底した土づくりからスタート、地元畜産農家の良質な堆肥を投入して深く掘り起こし、ほ場を健康で活力あるものに改良、種から育てた苗を定植する。さらに、日本海と太平洋に注ぎ分ける分水嶺からの良質な水にも恵まれている。初夏になると、地下茎から分岐して伸びる芽が顔を出す。これが25から30cmに伸びたら収穫だ。5月から9月までの「長期どり(夏秋どり)」で、宿根性のアスパラガスは10年ほどは毎年収穫できることもあり、栽培面積、生産量ともに大きく伸びている。このアスパラがたっぷり入った手作りコロッケはアスパラの甘みとジャガイモのホクホク感が人気だ。一方のいも煮コロッケは、山形県の郷土料理芋煮をコロッケにしたもの。サトイモのねっとり感と醤油ベースの味わいでこちらもまた美味。</p> <p>お土産やレストランでの食事、産直は隣接する「ヤナ茶屋もがみ」で利用することができるほか、休憩に川辺まで降りることができ、自然に触れリフレッシュできる「道の駅」だ。</p>
山形-23	やまがた蔵王		山形市	国道13号	<p>蔵王の麓に位置する「出会える・つながる・あなたと・だれかと」がコンセプトの、2023年(令和5年)8月登録、同年12月にグランドオープンした「道の駅」。東北中央道山形・上山ICより車で3分、西側には月山を望む風光明媚なエリアに位置している。</p> <p>観光客、地域住民、道路利用者など、さまざまな交流が生まれるよう、多彩なジャンルのイベントが開催される大空間の「樹氷ホール」、手ぶらで芋煮会などを楽しめる「芋煮広場」、スポーツの体験会やワークショップが開催できる「イベント広場」、高速バスや路線バスの待合所、無料のパークアンドライド駐車場、有料車中泊エリアなどを備えた複合的施設となっている。</p> <p>「道の駅」のおすすめスイーツは、蔵王の冠雪をイメージしたホワイトチョコレートをコーティング、上はパリッと、外はカリッ、中はカスタードプリンのようなモチっと触感の、山形県産の卵と牛乳を贅淫に使用した「蔵王カヌレ」、蔵王の雪山をイメージし、蔵王の卵を使用した濃厚なミルクプリンと雪のようなミルクの泡が楽しめる、道の駅・やまがた蔵王限定「蔵王スノープリン」はいずれも人気商品だ。イートインスペースもあるので、ゆっくり楽しむことができる。</p> <p>お土産や産直は、4000品目以上そろっている「ぐっと山形」、新鮮な野菜とフルーツを販売している「食の駅」が隣接しているので、週末はたくさんのお客様で賑わっている。</p> <p>また、2025年(令和7年)5月に「防災道の駅」に追加選定され、山形県内では2番目に、東北の「道の駅」では合計11駅となった。災害時には、観光客など、「道の駅」利用者や地域の方々の一時的避難場所として、また、自衛隊や消防など関係機関の活動拠点として活用ことができ、非常用発電装置と受水槽により3日分の電源と水を確保、災害時に使用できるマンホールトイレを10基保有している。</p>
山形-24	新庄エコロジーガーデン原蚕の杜		新庄市	国道13号	<p>2025年(令和7年)1月第62回登録、同年12月オープンの道の駅・新庄エコロジーガーデン原蚕の杜。1934年(昭和9年)に「蚕糸試験場福島支場新庄出張所」として開設、2000年(平成12年)に閉所となった後、2013年(平成25年)に国登録有形文化財となった建物をリノベーションして、貸出施設・産地直売所・カフェレストラン等の様々な用途で活用している「道の駅」だ。敷地内は、「休憩・情報発信施設」、「やすらぎ交流施設(産直まゆの郷)」、「創造交流施設」、「文化交流施設」、「旧農林省蚕糸試験場新庄支場庁舎」、「宿泊交流施設ゲストハウスミノムシ」からなる。</p> <p>「やすらぎ交流施設」は、「旧農林省蚕糸試験場新庄支場第五蚕室」をリノベーション、産直まゆの郷として、地元の生産者が作った旬の新鮮な農産物や加工品を取り扱っており、地産地消として、学校給食への食材の提供なども行っている。「道の駅」のおすすめは、「雪の下野菜」だ。奥羽山脈の山懐にある新庄盆地では、古くから冬野菜の雪中保存が行われていた。低温に耐えるため野菜の自衛本能により甘みが増し、みずみずしくなった野菜を、30名あまりの産直会員より、各自の家で雪の下に保存しており、30t以上の野菜を1月下旬頃から3月上旬頃まで販売している。青い「雪の下野菜」と書かれた丸いシールが目印だ。</p> <p>「納豆大福」は、8月を除き、年間を通して販売されている。柔らかいお餅の中に、新庄の農家が育てたネギの香りも良い粒のしっかりした納豆が醤油ベースのタレで味付けされたものがしっとり入っている。納豆は餅の中に1日入れておいてもふやけないようなものを選び、片手で持って食べられるのが特徴。朝ごはんや食べたり、毎日、買いに来る小学生がいたり、まさに老若男女に人気の大福だ。</p> <p>「創造交流施設」は、「旧農林省蚕糸試験場新庄支場 第四蚕室」をリノベーションしており、中に入っている「おやさいcafe AOMUSHI」では、隣接する産直で仕入れた新鮮野菜を使った日替わりお野菜ピッツァが人気だ。野菜本来の甘みと香りを生かし、素材の魅力を引き出す一枚に仕上がっており、季節ごとに表情を変える味わいも魅力だ。</p> <p>「文化交流施設」は、「旧農林省蚕糸試験場新庄支場 第一蚕室」をリノベーション、大人数での会合が可能な多目的ホールや文化的交流を目的とした用途で利用可能な文化交流スペースがあり、イベントや会議などで使用することができる。</p> <p>様々な用途で活用している「道の駅」は、平日はゆったりとすごせるノスタルジックかつ自然豊かな空間、週末にはイベントで賑わいをみせる交流の場として地域に根差している。</p>